

新国立劇場 2019/2020 シーズンオペラ

ヘンデル

ジュリオ・チェーザレ

Giulio Cesare

<新制作>

2020年4月7日(火)・11日(土)・12日(日)

会場:新国立劇場オペラパレス 好評発売中



パリ・オペラ座公演より photo: Agathe Poupenny

絢爛たるバロック・オペラが、いよいよオペラパレス初登場！！

大野和士芸術監督が着任当初から新国立劇場のレパトリーに取り入れることを表明し、大いに注目を集めている新シリーズ“バロック・オペラ”。そのプロジェクトが、いよいよヴェールを脱ぎます。

バロック・オペラは、近年進んだ作品研究やピリオド楽器(古楽器)ブームによってその魅力が見直され、今や新たな創造的なアートとして世界の歌劇場で人気を博しています。凝った仕掛けを多用し、歌手の特殊な技巧が次々展開する一大エンターテインメントとして隆盛を極めたバロック・オペラ。中でも大作曲家ヘンデルの最高傑作にして絢爛たる歴史スペクタクルとして人気の高い『ジュリオ・チェーザレ』を、ロラン・ペリー演出版で上演します。ペリー版は2011年パリ・オペラ座ガルニエで初演され、現代のエジプトの博物館の倉庫を舞台とし、巨大な彫像や絵画が次々に現れるユーモアいっぱいの演出です。装飾に満ちたバロック的価値観と壮大な歴史劇という作品背景を逆手に取った大胆かつ秀逸な演出で、21世紀の“バロック祭り”をお楽しみください。

英雄ジュリアス・シーザーをめぐる歴史劇に話題の歌手が集結！

『ジュリオ・チェーザレ』(ジュリアス・シーザー)は、シーザーとクレオパトラの有名な史実の物語。チェーザレ(シーザー)、クレオパトラ、トロメーオ(プトレマイオス)、それにアキッラ(アキラス)といった歴史上の人物たちを、世界的ソプラノ歌手ミア・パーション、カウンターテナーとして大注目を集める藤木大地らが演じます。指揮にはバロック音楽の第一人者リナルド・アレッサンドリーニが登場、まさに必見必聴の贅沢な上演です。アートの潮流を語るには外せない、エポックメイキングな上演をお見逃しなく！

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

絢爛たるバロック・オペラが、ついにオペラパレス初登場！！

世界のクラシック音楽界は、20世紀終盤からのピリオド楽器(古楽器)ブームや作品研究の深化によって、バロック音楽がブーム。オペラ分野でも、バロック・オペラの魅力が見直され、今や新たな創造的アートとして、作品に新たな光を当てた上演が世界の歌劇場で人気を博しています。大野和士芸術監督は2018年の新国立劇場着任時より、世界的潮流であるバロック・オペラを新国立劇場のレパートリーに取り入れることを表明。ついにそのプロジェクトがヴェールを脱ぎます。

凝った仕掛けを多用し、カストラート(94年公開の同名の映画で有名)歌手の特殊な声や、バロックならではの装飾的な音楽を歌いこなす特殊技巧が次々展開する一大エンターテインメントとして、17世紀から18世紀の欧州各地で爆発的に隆盛を極めたバロック・オペラ。中でも大作曲家ヘンデルの最高傑作のひとつ『ジュリオ・チェーザレ』は、レチタティーヴォで導かれるアリアが次々と展開し、劇的効果と共に多彩な音楽の美しさ、歌手の妙技を存分に楽しめる、絢爛たるスペクタクルです。新国立劇場で上演するにあたり大野芸術監督が白羽を立てたのが、パリ・オペラ座ガルニエで2011年に初演されトリノ王立劇場でも上演された、ロラン・ペリー演出版。現代のエジプトの博物館の倉庫を舞台とし、巨大な彫像や絵画が次々と現れる、ペリーらしいユーモアにあふれた演出です。装飾と虚栄に満ちたバロック的価値観と壮大な歴史劇という作品背景を逆手に取った秀逸な演出は、まさに21世紀の“バロック祭り”。歴史上の人物が人間臭く描かれ、バロックならではの倒錯した世界に観客を一瞬で誘います。オペラパレスでの本格上演ならではの壮大なイベントに、ぜひお立会いください。

英雄ジュリアス・シーザーをめぐる歴史劇に話題の歌手が集結！

『ジュリオ・チェーザレ』(ジュリアス・シーザー)は、古代ローマのジュリアス・シーザーと古代エジプトの美貌の女王クレオパトラの有名な史実の物語。野心家でリーダーシップに溢れる一方で情にも色香にも弱いチェーザレ(シーザー)、聡明で勝気、体を張って政局を乗り切りながら一途な恋心も見せるクレオパトラ、クレオパトラと一進一退の争いを続ける策略家の弟トロメオ(プトレマイオス)、それにトロメオの側近の剛勇アキッラ(アキラス)といった歴史上の人物が次々登場します。

クレオパトラには世界的ソプラノ歌手ミア・パーション、チェーザレには世界が目する若手メゾ、シュカリザダが出演。トロメオを歌うのは、新国立劇場オペラ研修所出身、カウンターテナーとしてウィーン国立歌劇場にもデビューし大注目を集める藤木大地。ストーリーの鍵を握るポンペオの妻コルネリアとその息子セストには加納悦子、金子美香と日本を代表するメゾ二人が出演。剛勇アキッラ役はロシア出身のバリトン、ヴィタリ・ユシュマノフが新国立劇場デビュー。クレオパトラの小姓ニレーノを演じるカウンターテナーの村松稔之も新国立劇場初登場です。指揮にはバロック音楽の世界的第一人者リナルド・アレッシンドリーニが登場。まさに必見必聴の贅沢な上演です。

* バロックとは…「ゆがんだ真珠」を指す barocco が語源とされ、16世紀末から18世紀にヨーロッパの美術、建築、音楽さらに文学、演劇、思想とあらゆる芸術に及んだ様式、またその時代を指す。均整と調和を重んじたルネサンス様式に対し、過剰なまでに装飾的で動的、劇的迫りに満ちた表現、現実を超越しコントラストの際立つ表現を特色とする。美術ではカラヴァッジョ、ルーベンス、レンブラント、彫刻・建築ではベルニーニなどに代表される。音楽ではモンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、スカルラッティ、さらにバッハやヘンデルなどにより、宗教音楽、ソナタやコンチェルトが発展。バロック音楽を象徴する通奏低音が発明され、調性や和声の概念も確立された。オペラの草創期でもあり、歴史上初めてのオペラ『ダフネ』(現存する最古のオペラは1600年、ペリーの『エウリディーチェ』)からモーツァルト(1756-1791)登場前までをバロック・オペラと称する。オペラというジャンルそのものが、バロックの潮流の中で発展したとも言える。

現在世界で上演されているバロック・オペラの作曲家は、オペラ誕生の地イタリアのモンテヴェルディ(『オルフェオ』『ポッペアの戴冠』)、ヴィヴァルディ(『オルランド』)、ペルゴレージ(『奥様女中』)、太陽王ルイ14世の国フランスのリュリ(『アルミード』)、ラモー(『レ・パラダン』)、エリザベス朝で開花した演劇の国イギリスのパーセル(『デイドとエネアス』『妖精の女王』)、ドイツからイギリスへ帰化したヘンデル(『リナルド』『アルチャーナ』『ジュリオ・チェーザレ』『アルチャーナ』『セルセ』)、ドイツのグルック(『オルフェオとエウリディーチェ』)など。

鑑賞のご参考に…新国立劇場情報センター刊行『バロック・オペラその時代と作品』

バロック・オペラ鑑賞の手引きに最適！オペラ誕生からモーツァルトが活躍する以前のバロック期のオペラ41作品を、概説とあらすじで紹介する1冊。主要な作曲家の解説、バロック・オペラをよりよく知るためのコラムも充実。

(編・著者：山田治生／著者：井内美香 片桐卓也 矢澤孝樹／B5判 89ページ／定価700円税別)

※販売分は在庫僅少ですが、情報センター閲覧室(新国立劇場5階)でお読みいただけます。問：03-5352-5716(情報センター)

<キャスト・スタッフプロフィール>**【指揮】リナルド・アレッサンドリーニ****Rinaldo ALESSANDRINI**

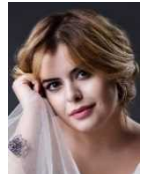
イタリア出身の指揮者、ハーブシコード、フォルテピアノ、オルガン奏者。ローマの古楽合奏団、コンチェルト・イタリアーノ創立者、音楽監督。スコットランド室内オーケストラ、エイジ・オブ・エンライトメント管弦楽団、フライブルク・バロックオーケストラ、ボストン・ヘンデル・ハイドン・ソサエティ、フィレンツェ歌劇場管弦楽団、スポレート音楽祭管弦楽団、トスカーナ管弦楽団、トスカニー二管弦楽団、ボルドー・オペラ管弦楽団、オビエド交響楽団、リヨン歌劇場管弦楽団など世界各国のオーケストラと共演。最近のオペラでは、ウェルシュ・ナショナル・オペラ及びザクセン州立歌劇場『オルランド』、ベルリン・フィルハーモニー及びブリュッセル・ボザールでの『妖精の女王』、ミュンヘンで『見てくれの馬鹿娘』『ツァイーデ』（モーツァルト）、ノルウェー国立歌劇場『オルフェオとエウリデーチェ』（グルック）と『フィガロの結婚』、ベルギー王立ワロニー歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』などを指揮。ミラノ・スカラ座及びパリ・オペラ座ガルニエのモンテヴェルディ全作ツィクルスも指揮。イタリア音楽、バッハなどの録音も多く、グラモフォン賞など受賞も多い。フランス芸術文化勲章シュヴァリエ受勲。モンテヴェルディの正統的演奏者とみなされており、ペーレンライター版『オルフェオ』『ウリッセの帰還』を校訂している。新国立劇場初登場。

**【演出・衣裳】ロラン・ペリー****Laurent PELLY**

演劇、オペラ双方で活躍するフランス人演出家。全演出作品で衣裳をデザインし、美術も手掛けることもある。1997年～2007年、アルプス国立演劇センター監督、08年～18年、トゥールーズ国立劇場共同監督。16年インターナショナル・オペラ・アワード最優秀演出家賞、同時にオッフェンバック『にんじんの王様』（リヨン歌劇場）がベスト・ディスクアワード・ワーク賞受賞。最近の演出作品に、シャンゼリゼ劇場『セビリアの理髪師』、サンタフェ・オペラ『キャンディード』、メトロポリタン歌劇場『サンドリヨン』、リヨン歌劇場『ヴィヴァ・ラ・マンマ』、モネ劇場、マドリッド王立歌劇場、ロレーヌ歌劇場共同制作『金鶏』（フランス批評家賞 Prix de l'Europe Francophone）、グライントボーン音楽祭『ペアトリーチェとベネディクト』などがあり、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場『夢遊病の女』、『マノン』『清教徒』『ジュリオ・チェーザレ』『ナクソス島のアリアドネ』、パリ・オペラ座『七つの大罪』、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場『悪魔のロベール』などは世界的に称賛されている。演劇でも数々の賞を受賞。18/19シーズンは、フィラデルフィア・オペラ、ウィーン国立歌劇場共同制作『ルチア』、マドリッド王立歌劇場、モネ劇場、ボルドー歌劇場共同制作『ファルスタッフ』、リヨン歌劇場のオッフェンバック『青ひげ』を演出。新国立劇場初登場。

**【ジュリオ・チェーザレ】アイタージュ・シュカリザダ****Aytaj SHIKHALIZADA**

アゼルバイジャン、バクー出身。バクー音楽大学で学び、ヤング・パフォーマーズ・ディプロマを取得した後、ウィーン音楽大学にて学ぶ。国内外で多くの国際コンクールに入賞。2018年にはウィーンでヘンデル『オレステ』演奏会形式のタイトルロールに出演。ウィーン・シェーンブルン宮殿劇場で『エウゲニ・オネーギン』オリガ、カルメンとシャルロットの抜粋にも出演している。18年夏、ヴェルサイユ歌劇場『アルジェのイタリア女』イザベラに出演してプロ歌手としてヨーロッパデビュー。18/19シーズンにはドルトムント歌劇場専属歌手となり、『セビリアの理髪師』新制作のロジーナでデビューし成功を収め、フィリップ・グラス作曲『アクナーテン』（新制作）ネフェルティティに出演した。ほかにシュトゥットガルト州立歌劇場『3つのオレンジへの恋』リネッタ、19年夏にはブレゲンツ音楽祭『エウゲニ・オネーギン』オリガ、19年12月にはクラークフルト歌劇場でも同役出演した。19/20シーズンからはベルリン州立歌劇場オペラスタジオのメンバーとなり、多くの出演が予定されている。新国立劇場初登場。

**【クーリオ】駒田敏章****KOMADA Toshiaki**

愛知教育大学を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期生終了。研修所公演『ナクソス島のアリアドネ』音楽教諭などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてドイツ・ベルリンに留学。12年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭に『スペインの時』ラミー口役で出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。第83回日本音楽コンクール（歌曲）第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアンに出演している。

**【コルネーリア】加納悦子****KANO Etsuko**

東京藝術大学、同大学大学院を修了後、ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。ケルン歌劇場専属歌手として『フィガロの結婚』ケルビーノ、『蝶々夫人』スズキなど40以上の演目出演。国内ではNHK交響楽団などとの共演や、二期会、びわ湖ホールオペラなどで活躍。最近では2013年9月びわ湖ホール・神奈川県民ホール共催『ワルキューレ』フリッカを演じた。新国立劇場では『ホフマン物語』ニクラウス／ミューズ、『魔笛』侍女Ⅱ、『ばらの騎士』アンニーナ、『ルサルカ』料理人の少年、『ピーター・グライムズ』セドリー夫人、『サロメ』ヘロディアスの小姓、『セビリアの理髪師』ベルタ、『神々の黄昏』ヴェルグンデなどに出演している。2013年10月文化庁芸術祭オープニング公演でエルガー『海の絵』を独唱して、高い評価を得ている。ソロCD「メアリ・スチュアート女王の詩」（ALM RECORDS）は13年度レコードアカデミー賞声楽部門受賞。19/20シーズンは『セビリアの理髪師』ベルタ、『サロメ』ヘロディアスの小姓にも出演予定。二期会会員。



【セスト】金子美香**KANEKO Mika**

東京音楽大学声楽演奏家コースを首席で卒業、同大学院声楽専攻修了。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院マスタークラス修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。終了時に優秀賞受賞。第18回奏楽堂日本歌曲コンクール第3位入賞。第15回日仏声楽コンクール第2位及び日本歌曲賞受賞。08年二期会『ワルキューレ』グリムゲルデでデビュー。10年東京二期会『オテロ』エミーリア、同『魔笛』侍女Ⅲのほか、東京・春・音楽祭には14年『ラインの黄金』フロスヒルデ、15年『ワルキューレ』シュヴェルトライテ、17年『神々の黄昏』フロスヒルデ並びに第1のノルンで出演。18年夏にはバイロイト音楽祭『ワルキューレ』グリムゲルデに出演という快挙を成し遂げた。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『カルメン』メルセデスに出演している。二期会会員。

**【クレオパトラ】ミア・パーション****Miah PERSSON**

スウェーデン出身。世界各地のコンサートやオペラで活躍するソプラノ。これまでにメトロポリタン歌劇場で『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『魔笛』パミーナ、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、ミラノ・スカラ座『ポッペアの戴冠』ポッペア、ウィーン国立歌劇場でフィオルディリージ、『ばらの騎士』ゾフィー、『フィガロの結婚』スザンナ、グライントボーン音楽祭でフィオルディリージ、ドンナ・エルヴィーラ、『放蕩児の遍歴』トゥルーラヴ、シャンゼリゼ劇場とバルセロナ・リセウ大劇場でドンナ・エルヴィーラ、バイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場でフィオルディリージ、アムステルダム及びルツェルン、エクサンプロヴァンス音楽祭でミシェル・ファン・デル・アー『Blank Out』、ガーシントン・オペラ『カプリッチョ』伯爵夫人、ローマ歌劇場『イドメネオ』エレットラなどに出演。18年12月には東京交響楽団『フィガロの結婚』伯爵夫人に出演。19/20シーズンはベルリン州立歌劇場『フィガロの結婚』伯爵夫人、ヴェルビエ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラに出演予定。新国立劇場では12/13シーズン『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージに出演している。

**【トロメオ】藤木大地****FUJIKI Daichi**

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。文化庁派遣芸術家在外研修でポローニャに留学後、ウィーンに拠点を置き、ウィーン国立音楽大学大学院で文化経営学を専攻。2011年、ローマ国際宗教音楽コンクールファイナリスト。12年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてオーストリア代表に2年連続で選出、世界大会ファイナリストとなり、ハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。13年5月、ポローニャ歌劇場にてグルック『クレーリアの勝利』マンニオ役でヨーロッパ・デビュー。翌月同劇場にバッティステッリ『イタリア式離婚狂想曲』カルメロ役で出演、国際的に高い評価を得る。17年4月にライマン『メデア』ヘロルド役でウィーン国立歌劇場にデビュー。東洋人のカウンター・テナーとして史上初の快挙で、現地の聴衆から熱狂的に迎えられた。国内では主要オーケストラとの共演や各地でのリサイタルで活躍しており、村上春樹原作の映画「ハナレイ・ベイ」主題歌も担当。18年10月にはメジャー・デビュー・アルバム『愛のよろこびは』をリリース。パロックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーで活躍している。新国立劇場へは『フィガロの結婚』ドン・クルツィオなどへ出演しており、今回がカウンター・テナーとしてのデビュー公演となる。

**【アキツラ】ヴィタリ・ユシュマノフ****Vitaly YUSHMANOV**

サンクトペテルブルク生まれ。マリインスキー劇場の若い声楽家のためのアカデミーで学ぶ。ライブツィヒのメンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇大学卒業。在学中にバート・ヘルスフェルト・オペラ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、ライブツィヒ・ゲヴァントハウスの「ニューイヤーコンサート」に出演。2013年の秋以来度々来日し、オペラ、リサイタル、オーケストラへの共演などに出演。15年春より日本に拠点を移し、デビューアルバム『歌の翼に』、『Parole d'amore～愛の言葉』に続き『ありがとう』を風にのせて～日本名歌集～をリリース。17年にはびわ湖ホールオペラ『ラインの黄金』ドンナー、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2017、第2回オペラ歌手紅白対抗歌合戦に出演。18年は東京・春・音楽祭、ロシア・ナショナル管弦楽団『イオランタ』（演奏会形式）エブン＝ハキアに出演。19年は東京芸術劇場ほかの全国共同プロジェクト『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、らららクラシックコンサート、第4回オペラ歌手紅白対抗歌合戦に出演。日本トスティ歌曲コンクール2015第1位及び特別賞、第14回東京音楽コンクール声楽部門第2位、第52回日伊声楽コンクール第1位及び最優秀歌曲賞受賞。新国立劇場では19年にオペラ研修所公演『イオランタ』でロシア言語指導、『エウゲニ・オネーギン』ではオネーギン役のカヴァーを務めた。新国立劇場公演へは今回がデビューとなる。

**【ニレーノ】村松稔之****MURAMATSU Toshiyuki**

京都府出身。東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学院修士課程独唱科を首席で修了。ノヴァーラ・G.カンテッリ音楽院古楽声楽科で研鑽を積む。第20回ABC新人オーディション最優秀音楽賞、第12回千葉市芸術文化新人賞、第24回青山音楽賞新人賞、第34回飯塚新人音楽コンクール第2位、第13回東京音楽コンクール第3位等受賞。2017年度野村財団奨学生、19年度京都市芸術文化特別奨励生。藝大フィル、大阪交響楽団、大阪フィル、山形フィル、新日本フィルハーモニー、日本センチュリー交響楽団、東京ヴィヴァルディ合奏団等と共演。NHK・FM「リサイタル・ノヴァ」やABC放送にて大阪フィルとの共演などテレビ、ラジオに出演。17年の三枝成彰『狂おしき真夏の一日』ユウキ役で好評を博し、ラ・フォル・ジュルネTOKYO2018で現代歌曲を取り入れた選曲を歌うなど、カウンターテナーとして古楽から現代音楽まで幅広いレパートリー作りに取り組んでいる。これまでに、日本ヘンデル協会『フラワー・ヴィオ』タイトルロール、ライマンの歌曲「カウンターテナーとピアノのための5つの歌曲」（日本初演）、バッハ「カンタータ」、「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」等のソリストを務める。新国立劇場初登場。



新国立劇場 2019/2020 シーズンオペラ
 ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
 ジュリオ・チェーザレ
 Georg Friedrich HÄNDEL / Giulio Cesare
 全3幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2020年4月7日(火)17:30／11日(土)14:00／12日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】2019年11月16日(土)

※予定上演時間：約4時間15分（休憩含む）

指揮	リナルド・アレサンドリーニ	ジュリオ・チェーザレ	アイタージュ・シュカリザーダ
Conductor	Rinaldo ALESSANDRINI	Giulio Cesare	Aytaj SHIKHALIZADA
演出・衣裳	ロラン・ペリー	クーリオ	駒田敏章
Production, Costume Design	Laurent PELLY	Curio	KOMADA Toshiaki
美術	シャンタル・トマ	コルネーリア	加納悦子
Set Design	Chantal THOMAS	Cornelia	KANO Etsuko
照明	ジョエル・アダム	セスト	金子美香
Lighting Design	Joël ADAM	Sesto	KANEKO Mika
ドラマトウルク	アガテ・メリナン	クレオパトラ	ミア・パーション
Dramaturg	Agathe MÉLINAND	Cleopatra	Miah PERSSON
演出補	ローリー・フェルドマン	トロメオ	藤木大地
Associate Director	Laurie FELDMAN	Tolomeo	FUJIKI Daichi
舞台監督	大仁田雅彦	アキッラ	ヴィタリ・ユシュマノフ
Stage Manager	ONITA Masahiko	Achilla	Vitaly YUSHMANOV
		ニレーノ	村松稔之
		Nireno	MURAMATSU Toshiyuki

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/giuliocesare/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,650円：公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

新国立劇場 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp> 東京都渋谷区本町1-1-1 京王新線新宿駅より1駅、初台駅直結。

宣材としてパリ公演の舞台写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】